「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

対　策　分　析　シ　ー　ト

対策メニュー名	空調機室内機のフィルター、コイル等の清掃	シート番号	A11211
システム・設備	空調システム	6 類型	運用改善
削減余地順位	全体：30 位　産業部門：45 位　業務部門：26 位		

診断結果と対策提案実施の状況（診断結果は H28～R2 年度診断分、提案実施状況は H28～H31 年度診断分）

表１．診断結果（対策の削減余地・診断時の提案率）　▶ 削減余地の大きい 5 業種（診断件数 20 以上）

	全体	産業部門	業務部門	76 飲食店	85 社会保険等の事業	60 その他小売業	81 学校教育	83 医療業
削減余地 [千 t-CO_2]	969	154	815	143	113	80	60	46
診断件数	3,303	1,216	2,087	46	484	33	56	179
診断時提案数	839	120	719	34	189	10	25	67
診断時提案率	25[%]	10[%]	34[%]	74[%]	39[%]	30[%]	45[%]	37[%]

表２．対策提案の実施状況

	全体	産業部門	業務部門	76 飲食店	85 社会保険等の事業	60 その他小売業	81 学校教育	83 医療業
事業報告書提案数	716	91	625	33	172	9	16	54
事業報告書実施数	302	42	260	10	69	3	8	27
事業報告書実施率	42[%]	46[%]	42[%]	30[%]	40[%]	33[%]	50[%]	50[%]

表３．実施された対策の内容

	項目		最大値	中央値	最小値	平均値
提案・実施内容	CO_2 削減量	[t-CO_2/年]	25.8	2.0	0.01	3.4
	導入コスト	[千円]	11,150	0	0	3
	運転コスト削減	[千円/年]	1,146.4	72.7	-14.6	111.7
	事業所 CO_2 削減割合	[%]	4.5	0.8	0.004	1.0

表４．提案された対策の実施理由・未実施理由

実施理由	初期費用が安かったため	62	「省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため」が実施理由の 6 割を占める。
	補助金を活用できたため	6	
	投資回収年数が短いため	0	
	省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため	163	
	その他　（無回答を含まず）	49	
未実施理由	初期費用が高かったため	12	「省エネ効果の根拠が不明で確実性がなかったため」が未実施理由のトップであるのは実施理由の裏返しであり、効果の根拠を明示することが大切。
	提案された設備の機能や運用に懸念	1	
	補助金を活用できなかったため	1	
	投資回収年数が長かったため	6	
	省エネ効果の根拠が不明で確実性がなかったため	22	
	既存設備がまだ使えたため	4	
	対策実施により事業所の操業に影響が生じるため	3	
	その他　（無回答を含まず）	30	

表５．同時に実施されることが多い対策

同時実施の順位	メニュー番号	対策メニュー名	同じ大分類
1	11135	高効率パッケージエアコンの導入（老朽化更新を含む）	○
2	21031	LED 照明の導入	
3	11316	冷暖房設定温度・湿度の緩和	○

※ 特記事項

1. 実施された対策について（表 3）

(1) CO_2 削減量で 15[t-CO_2/年]以上は 9 件あるが、提案通り実施した最大事例は、空調機エアフィルター清掃で 25[t-CO_2/年]削減で運転コスト削減 1.1[百万円/年]。効果根拠は、冷房時で約 4[%]、暖房時で約 6[%]の消費電力の削減（環境省ＨＰ参照）としている。

(2) 実施案件で導入コストが記載されているのは 285 件中 12 件とわずかであるが、最大事例は室内機（熱交換器）の薬品洗浄で 15[t-CO_2/年]削減。

(3) 事業所 CO_2 削減割合 3[%]以上は 7 件あるが、最大事例はエアコンのコイル・フィルターの定期清掃で CO_2 削減量が 6.4[t-CO_2/年]、運転コスト削減 203[千円/年]。

2. 人件費程度の費用で効果がある対策なので、実施率は部門を問わず高い。(表 2)